







鹿兒島市史

V

監
修

鹿児島大学名誉教授

宮廻

甫允

(みやさこ・としみつ)

題
字／鹿児島市長
森
博幸



序 文

鹿児島市は明治二十二年四月一日に市制を施行し、平成二十六年に百二十五周年という節目を迎えました。

この間、桜島の大爆発、第二次世界大戦の空襲による市街地の焼失、度重なる風水害など、幾多の困難と試練に遭遇してまいりましたが、そのたびに先人の英知とたゆまぬ努力によってそれらを克服し、わが鹿児島市は南九州の中核都市として大きく発展してまいりました。

その歴史の流れにつきましては、これまで四巻にわたり刊行いたしました鹿児島市史にまとめられたところでありますが、その後、今日までの二十五年間におきましても、平成八年四月の中核市への移行、平成十六年十一月の吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町との合併をはじめとして、行政、経済、社会、教育、文化等、あらゆる分野におきまして、めざましい発展を遂げております。

この「鹿児島市史第Ⅴ巻」は、市制百二十五周年を迎えたのを機に、先に刊行いたしました「鹿児島市史第Ⅳ巻」の続刊として、平成元年以降、約二十五年間の本市発展の軌跡を記録したものであります。

この記念すべき節目に当たり、改めて本市発展の歴史を振り返るとともに、少子高齢化の進行や人口減少局面への移行、グローバル化の進展など、時代の潮流に対応し持続可能な発展について考える契機としてご一読いただければ幸甚に存じます。

この市史第Ⅴ巻を刊行するにあたりまして、執筆を担当いただきました南日本新聞社、並びに監修をいただきました宮廻甫允先生、また各種の資料等のご提供をいただきました関係各位に対しまして、深甚の謝意を表します。

平成二十七年三月

鹿児島市長 森 博 幸

◇鹿児島市民憲章

(昭和42年4月29日制定)

わが鹿児島は、多くのかがやかしい歴史と、南国の美しい自然とで、すべての人々に親しまれています。

わたしたちは、つねに教養をたかめ、広い視野にたつてこのめぐまれた郷土を、一層すぐれた近代都市として発展させなければなりません。これが、わたしたちの理想であり、また大きな喜びであります。

わたしたちは、この使命をなすとげるために、ここに市民憲章を定め、こぞつて、つぎのことがらを守り、力強く前進していききたいと思います。

一 わたしたち 鹿児島市民は

みんな 力をあわせて

美しい町をつくりましょう。

一 わたしたち 鹿児島市民は

みんな よく働いて

豊かな町をきずきましょう。

一 わたしたち 鹿児島市民は

みんな きまりを守って

明るい町にいたしましょう。

一 わたしたち 鹿児島市民は

みんな 助け合って

子供たちの幸福を守りましょう。

一 わたしたち 鹿児島市民は

みんな あたたかい心で

旅行者をむかえましょう。

◆鹿児島市民歌

(昭和47年6月15日制定)

一、みなみの空に 青空に

きょうも火をふく 桜島

ああふるさとは ふるさとは

生きるよろこび 歌うまち

鹿児島 鹿児島

ゆたかな 鹿児島

ゆたかな 鹿児島

二、錦江湾に 潮みちて

わかい息吹の 陽がのぼる

ああふるさとは ふるさとは

花とみどりの かおるまち

鹿児島 鹿児島

みどりの 鹿児島

みどりの 鹿児島

三、城山に立ち あたらしい

風のゆくえを みつめよう

ああふるさとは ふるさとは

夢が未来へ ひらくまち

鹿児島 鹿児島

あしたの 鹿児島

あしたの 鹿児島

原 詞 高城 俊男
補 詞 鹿児島市民歌制定委員会
作 曲 中田 喜直

鹿児島市民歌

♩ = 108位

明るく、力強く、そして美しく

原詞 高 城 俊 男
補詞 鹿児島市民歌制定委員会
作曲 中 田 喜 直

みきしなんろみこやのうまそわにらんたににちあしあおおたぞみららしにていきよわかうかぜもいのひいゆをぶくふきえくのさひみがつらのめじぼよまるうああああふふるるささととととはははあふふるるささととととはははいはゆきなめるとがよみらちどりこりいひのへうかひうたおらうるくまままちちかかかしししままかかかしししままゆみあかりたなののかかかしししまま



市 旗

(昭和46年9月1日制定)

構 成…市旗の構成は白色の地に黒色の市紋章
(昭和42年鹿児島市告示第5号)と赤色
の桜島の図形を配する。

規 格…縦2、横3の比率とする。



市 花 きょうちくとう

(昭和43年11月1日制定)



市 木 くすのき

(昭和43年11月1日制定)

例 言

- 一、本巻は前出の鹿児島市史第IV巻に続き、市制施行百二十五周年を機に編纂された第V巻である。
- 一、本巻は主に平成元年以降、約二十五年間の本市の歴史である。ただし第六編については、合併前の町ごとに郷土誌との連続性について配慮した。
- 一、用字用語は原則として当用漢字と現代かなづかいを用い共同通信社記者ハンドブックに準じた。
- 一、本巻の背文字は鹿児島市長森博幸の揮毫による。
- 一、本巻に使用した資料写真は南日本新聞社の全面的な協力による。
- 一、本巻の各編の執筆は次のとおり南日本新聞社の七記者が担当した。
 - 第一編 政治 日高和広 第二編 経済 第一、二、五、六、七、八章 柳田英夫
 - 同 第三、四章 浜畑剛 第三編 社会 第一、二、三、四章 福本政志
 - 同 第五、六、七章 富田好納 第四編 教育 第五編 文化 久永純也
- 第六編 合併前の五町の歩み 吉嶺明人



鹿児島アリーナ



中核市誕生



かごしま水族館 黒潮大水槽



合併記念式典



九州新幹線全線開業





緑化された軌道敷と超低床電車



鹿児島市制125周年・新生鹿児島市10周年記念式典

鹿児島市史 V 目次

第一編 政治

第一章 行政

I 地方自治の変遷

中核市移行までの市政

「中核市」鹿児島市誕生

中核市移行後、合併までの市政

新生鹿児島市誕生

合併後の市政

鹿児島市総合計画

市制125周年・新生鹿児島市10周年記念事業

II 行政機構の変遷

市長

副市長(助役)

二六

二二

二二

二一

一九

一三

一〇

七

五

一

一

一

収入役	二七
市庁舎の変遷	二七
行政委員会	三二
機構と職員	三四
外郭団体	四〇
市民のシンボル	四七
都市宣言	四七
名誉市民	五一
鹿児島市民栄誉賞	五二
鹿児島市民表彰	五二
鹿児島市スポーツ栄誉賞	五三
鹿児島市芸術文化栄誉賞	五三
IV 市域の変遷	五四
V 国際交流	五五
ナポリ市との交流	五五
パース市との交流	五六
長沙市との交流	五七

マイアミ市との交流	五七
アジアとの交流	五九
国際交流の推進	六〇
VI 国内交流	六一
山形県鶴岡市との交流	六一
薩摩義士ゆかりの交流	六二
鹿児島市、熊本市、福岡市交流連携など	六三
VII 連携協定	六六
VIII 行政改革	七一
IX 市政情報の公開・提供	七六
情報公開	七六
広報	七九
X 電子行政	八一
XI 市民参画	八五
第二章 財 政	八八
I 合併前の市財政	九四
歳入の移り変わり	九四

歳出の移り変わり	一二四
基金	一四〇
II 合併後の市財政	一四三
歳入の移り変わり	一四四
歳出の移り変わり	一四五
基金	一四七
III 合併前の特別会計と企業会計	一四八
特別会計の推移	一四八
企業会計の推移	一六〇
市有財産と市債	一七〇
IV 合併後の特別会計と企業会計	一七四
特別会計の推移	一七四
企業会計の推移	一七四
第三章 議会・選挙	一九五
I 市議会の沿革	一九五
定数	一九五
党派	一九六

常任委員会	一九六
特別委員会	一九七
議会運営委員会	一九七
市議会事務局	一九九
会議規則など	一九九
II 議会の活動	二〇〇
市議会の審議状況	二〇〇
議会の主な取り組み	二〇六
III 役職	二〇八
歴代議長	二〇八
歴代副議長	二〇九
議会選出役職	二一一
IV 選挙概観	二一一
市議会議員の選挙	二一二
県議会議員の選挙	二一六
国会議員選挙	二一九
最高裁判所裁判官国民審査	二二八

市長選挙 二二八

知事選挙 二三一

農業委員会委員選挙 二三三

漁業調整委員会委員選挙 二三三

第四章 保安 二三四

I 警察 二三四

II 海上保安 二三六

III 自衛隊 二三七

第二編 経 済

第一章 総 説 二三九

I 安定成長から低成長へ 二三九

II グローバル化の進展 二四三

III 鹿児島市の経済 二四六

九州新幹線開業に伴う効果 二四九

第二章 農林水産業 二五二

I 農林水産業の動向……………二五二

国内農業の動向……………二五二

鹿児島市の農業……………二五六

国内林業の動向……………二五九

鹿児島市の林業……………二六一

国内水産業の動向……………二六三

鹿児島市の水産業……………二六六

II 農林水産業の振興対策……………二六八

地域別の現状と振興策……………二七〇

農業振興の新たな取り組み……………二七五

林業振興の新たな取り組み……………二八三

漁業振興の新たな取り組み……………二八三

第三章 商 工 業……………二八六

I 商業の動向……………二八六

事業所の概要……………二九一

商都・鹿児島……………二九六

鹿児島市商業の推移……………三〇三

業種別事業所数、商品販売額	三〇八
地区別商業の動向	三一―
大型店の動向	三一七
飲食店の状況	三二二
宿泊業の状況	三二五
サービス業の推移	三二九
II 工業の動向	三三五
鹿児島市工業の推移	三三五
鹿児島市工業の業種別構成	三三八
鹿児島市工業の形態別構成	三四二
強い食品関連製造業	三四八
特産品製造業の動向	三五二
建設業、鉱業・採石業・砂利採取業の推移	三五五
III 商工業の振興策	三五九
商工業全般の振興策	三五九
商業・商店街の振興対策	三六八
工業・地場産業の振興対策	三八三

IV	金融	三九一
	鹿児島市内の金融機関	三九一
	預金、貸出残高の推移	三九六
	鹿児島市の制度金融	四〇二
	信用保証協会	四〇七
V	企業立地	四一
VI	経済団体	四一五
	鹿児島商工会議所	四一七
	かごしま市商工会	四二二
	鹿児島県中小企業団体中央会	四二三
	鹿児島県商店街振興組合連合会	四二六
	鹿児島市商店街連盟	四二八
	鹿児島県工業倶楽部	四二九
VII	鹿児島市中心市街地活性化	四三二
	鹿児島市中心市街地活性化基本計画（平成11年5月策定）	四三二
	鹿児島市谷山地区中心市街地活性化基本計画	四三七
	鹿児島市中心市街地活性化基本計画（第1期）（平成19年12月認定）	四四一

第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画（平成25年3月認定）	四五二
--------------------------------	-----

VIII 雇用対策	四五六
-----------	-----

失業率、有効求人倍率等の推移	四五六
----------------	-----

雇用促進対策	四五八
--------	-----

勤労者福祉	四六三
-------	-----

失業対策事業終了	四六五
----------	-----

第四章 観光

I 観光の動向	四六八
---------	-----

入込観光客数の推移	四六九
-----------	-----

宿泊観光客の推移	四七六
----------	-----

宿泊施設の収容能力	四八三
-----------	-----

観光消費額	四八四
-------	-----

豊かな観光資源	四八六
---------	-----

II 観光施策	四八八
---------	-----

観光施設の整備	四八九
---------	-----

交通機関の整備	四九四
---------	-----

受け入れ体制・おもてなし	五〇一
--------------	-----

観光振興策の制定	五〇五
観光客誘致	五〇八
イベントの振興	五一一
コンベンションの誘致	五一七
グリーン・ツーリズム	五一九
第五章 交通	五二三
I 九州新幹線鹿児島ルート	五二三
西鹿児島―八代間の着工	五二五
鹿児島中央―新八代間が開業	五二七
鹿児島ルート全線開業	五二八
全線開業後の推移	五二九
II 鹿児島市の交通行政	五三三
公共交通サービスの変容	五三三
バリアフリー化	五三七
公共交通不便地対策	五三九
新駅が開業	五四〇

III 公営交通の動向……………五四一

軌道事業……………五四四

自動車運送事業……………五五四

船舶事業……………五五九

IV 民間交通の動向……………五六五

陸上交通……………五六五

海上交通……………五七三

航空……………五七八

第六章 通 信……………五八五

I インターネット……………五八五

II 電話……………五九〇

公衆電話の衰退……………五九一

PHS・携帯電話の伸長……………五九四

III 郵便……………五九六

郵政民営化……………五九七

第七章 電気・ガス……………六〇四

I 電気……………六〇四

II ガス 六一二

第八章 物 流 六一七

I トラック輸送 六一七

II 海運 六二五

III 生鮮食料品 六三〇

中央卸売市場 六三〇

食肉センター 六三七

第三編 社 会

第一章 社会福祉 六三九

I 平成以降の社会福祉の動向 六三九

II 地域福祉 六四一

地域福祉の動向 六四一

地域福祉館 六四五

III 生活保護 六四八

生活保護の動向 六四八

いしき園 六五一

IV 児童福祉 六五一

児童をめぐる社会環境 六五一

少子化対策 六五四

保育所 六五九

児童館 六六〇

児童クラブ 六六〇

ちびっこ広場 六六一

子育て支援施設 六六一

子育て支援サービス 六六三

児童虐待 六六四

乳児院 六六六

手当等の給付と貸し付け 六六六

相談業務 六六八

V 障害者福祉 六六八

障害者福祉の動向 六六八

施設の充実 六七五

障害者環境の改善	六七六
制度面の充実	六七七
自立を目指す障害者	六七九
VI 高齢者福祉	六八〇
高齢者福祉の動向	六八〇
施設の充実	六八七
高齢者医療	六八九
生きがい対策	六九〇
在宅福祉	六九一
VII 介護保険	六九三
介護保険制度の創設、変遷	六九三
第二章 保健衛生	七一二
I 医療制度	七一二
医療制度の動向	七一二
医療費の増大	七一三
医療関係者	七一六
鹿児島市医師会	七一八

鹿児島市歯科医師会	七一九
鹿児島市薬剤師会	七二〇
鹿児島県看護協会	七二一
II 医療機関など	七二一
鹿児島市立病院	七二一
鹿児島市の病院・診療所の現状	七二八
歯科診療などの現状	七三一
看護師等の養成機関	七三一
保健所	七三二
III 保健予防衛生	七三五
感染症	七三五
予防接種	七三七
母子衛生、精神保健	七四〇
公衆衛生	七四〇
IV 健康づくり	七四二
健康づくりの推進	七四二
食育の推進	七四六

健康増進施設の充実	七五〇
第三章 環 境	七五二
I 環境行政の動向	七五二
II 環境保全	七五九
地球環境の保全	七五九
生活環境の保全	七六二
環境学習の推進	七六八
生物多様性地域戦略	七六九
保存樹・保存樹林・自然環境保護地区	七七〇
霧島錦江湾国立公園の誕生	七七四
III 環境衛生	七七五
美しいまちづくりの推進	七七五
し尿等処理対策	七七六
地域下水道の管理	七七七
IV 斎場・墓地	七七八
斎場	七七八
墓地	七七八

V 清掃 七七九

家庭ごみ対策 七七九

事業所ごみ対策 七八九

不法投棄対策 七九〇

第四章 公共事業 七九一

I 水道・公共下水道・工業用水道 七九一

水道事業の動向 七九一

公共下水道事業の動向 七九五

工業用水道事業の動向 七九九

サービス水準の向上 八〇〇

II 都市計画 八〇〇

都市計画関連事業 八〇〇

都市景観形成事業 八〇六

公園、緑地 八一三

天文館地区のまちづくり 八一七

鹿児島中央駅地区のまちづくり 八一九

上町地区のまちづくり 八二二

土地区画整理事業	八二四
谷山地区連続立体交差事業	八二四
住居表示	八二七
宅地開発許可制度	八二七
市街化調整区域内での建築許可制度	八三一
III 港湾・ウォーターフロント	八三二
港湾	八三二
本港区ウォーターフロント	八三五
IV 道路	八三七
道路網の整備	八三七
橋	八四三
V 治水対策	八四五
河川改修	八四五
VI その他の土木事業	八四七
自転車対策	八四七
地籍調査事業	八四九

VII 建築 八五〇

住宅供給 八五〇

鹿児島市の住宅概況 八五四

公共建築物の有効活用等 八五六

第五章 消防 八五八

I 火災・救急・救助 八五八

火災 八五八

救急 八五九

救助 八六一

救急ボランティア 八六二

II 組織の変遷 八六二

本部・3署・分遣隊 八六二

消防職員 八六四

消防団 八六五

III 装備の充実 八六五

車両・システムの充実 八六五

第六章 災害 八六八

I	8・6豪雨	八六八
	記録的な降水量	八六八
	被害の復旧と防災対策	八七一
	全国からの救援	八七三
II	台風	八七三
	相次ぐ来襲で大きな被害	八七三
	被害防止へ対策	八七四
III	その他の気象災害	八七五
	度重なる豪雨被害	八七五
	異常気象	八七五
IV	桜島	八七六
	昭和火口の活動活発化	八七六
	降灰対策	八八一
	大爆発に備えて	八八三
	火山対策で会議	八八四
	研究・観測体制	八八五
	大正噴火100周年事業	八八六

合併などに伴う組織改編 八八七

V 防災 八八八

VI 原子力災害対策 八九二

第七章 市民生活 八九五

I 人口 八九五

人口増の状況 八九五

男女別の配偶関係 九〇五

労働力と産業別就業者人口 九〇八

II 治安 九一三

犯罪 九一三

少年犯罪 九一三

暴力団排除の動き 九一四

交通事故 九一五

III 安心安全なまちづくり 九一七

安心安全なまちを目指して 九一七

武力攻撃などに備えて 九二〇

IV 市民と協働の推進 九二〇

	市民活動の促進	九二〇
V	地域コミュニティの活性化	九二二
	地域コミュニティづくり	九二二
VI	人権啓発	九二三
	人権教育・啓発基本計画策定	九二三
	人権相談・啓発活動	九二三
VII	男女共同参画	九二五
	男女共同参画社会の実現へ	九二五
	市の動き	九二七
VIII	消費生活	九二九
	消費生活センターのオープン	九二九
IX	平和啓発	九三〇
	平和都市宣言啓発事業など	九三〇
第四編	教育	
第一章	学校教育	九三七

I	学校教育の動向	九三八
	教育を考える市民会議	九三九
	教育相談室	九四〇
II	初等教育	九四一
	幼稚園	九四一
	保育所	九四一
	幼保連携の動き	九四三
III	義務教育	九四三
	児童生徒数の推移	九四五
	学校の開校	九四六
	学校の休・廃校	九四八
	学校の移転	九四九
	教育環境の整備	九四九
IV	高等学校	九五四
	高校の再編整備	九五四
	学区の統合	九五六
	公立高校	九五七

	私立高校	九五九
V	特別支援教育	九六一
	特別支援学校	九六二
	特別支援学級	九六四
VI	大学・短大	九六五
	鹿児島大学	九六七
	鹿児島県立短期大学	九七二
	鹿児島国際大学	九七三
	志學館大学	九七四
	鹿児島女子短期大学	九七五
	鹿児島純心女子短期大学	九七六
	放送大学鹿児島学習センター	九七七
VII	専修学校・各種学校など	九七九
	専門士制度	九八〇
	鹿児島県立農業大学校	九八一
第二章	社会教育	九八三
I	生涯学習	九八三

生涯学習の動向	九八四
生涯学習プラザ	九八七
地域公民館	九八八
校区公民館	九九〇
文化工芸村	九九一
その他の施設	九九一
II 青少年育成	九九二
冒険ランドいおうじま	九九三
III 図書館	九九四
鹿児島市立図書館	九九四
鹿児島県立図書館	九九六
IV 平川動物公園	九九七
V かごしま水族館	一〇〇〇
VI 県などの施設	一〇〇二
第三章 体育・スポーツ	一〇〇四
I 学校体育	一〇〇四
体力・運動能力の現状	一〇〇五

第五編 文化

第一章 文化

体育施設の整備	一〇〇五
学校給食	一〇〇六
II 社会体育・スポーツ	一〇〇七
市民スポーツの動向	一〇〇八
体育施設の充実	一〇〇九
民間企業の参入	一〇一七
スポーツ大会の開催	一〇一七
地元選手の活躍	一〇一九
トップスポーツチーム	一〇二四
I 文化振興	一〇二九
II 文化施設の充実	一〇三四
鹿児島市立科学館	一〇三四
かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館	一〇三六

	ふるさと考古歴史館	一〇三七
	鹿児島市立美術館	一〇三八
	鹿児島市民文化ホール・谷山サザンホール	一〇三九
	西郷南洲顕彰館	一〇四三
	県などの施設	一〇四三
III	文化活動	一〇四五
	文芸・出版	一〇四七
	美術	一〇五〇
	音楽	一〇五四
	舞台芸術	一〇五八
	茶道・華道	一〇六一
	芸能・映画	一〇六二
第二章	文化財	一〇六五
I	文化財行政	一〇六五
	デジタルミュージアム	一〇六六
II	文化財の保存・活用	一〇七〇
	建造物	一〇七〇

	郷土芸能	一〇七二
	埋蔵遺跡文化財	一〇七三
	甲突川五石橋	一〇七四
III	「集成館」の世界文化遺産登録へ向け	一〇七六
第三章 新聞・放送		
I	新聞・情報誌紙	一〇七九
	南日本新聞	一〇八〇
	鹿児島新報廃刊	一〇八二
	タウン誌・フリーペーパー	一〇八三
II	放送	一〇八四
	テレビ局	一〇八四
	エフエム	一〇八九
	ケーブルテレビ	一〇九〇
第四章 宗 教		
I	神道と神社	一〇九二
II	仏教と寺院	一〇九四
III	キリスト教と教会	一〇九七

IV 諸教 一〇九九

第六編 合併前の五町の歩み

第一章 吉田町 一一〇一

I 地方自治の変遷 一一〇一

政治 一一〇一

経済 一一〇二

社会 一一〇四

教育・文化 一一一五

II 行政機構の変遷 一一一六

III 町議会 一一一八

第二章 桜島町 一一二〇

I 地方自治の変遷 一一二〇

政治 一一二〇

経済 一一二八

社会 一一三三

